

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日 令和7年11月28日

P T A名		静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	小学部113人 中学部51人 高等部83人 計247人				

1. 使用状況

寄贈物品名	屋外複合遊具
使用学年及び人数	小学部 113人
使用頻度	全日(屋外活動可能日)
使用状況	<p>日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、体育、自立活動、学級活動、休み時間などに使用。雨天時とWBGT(暑さ指数)が28以上の日を除いて、児童が使用し、学年問わず遊んだり学習をしたりしている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>児童の全身運動を促し、運動能力を高めるのに効果があった。大型の遊具で遊ぶことを楽しみに、屋外へ出て遊具に向かって一斉に走っていく姿がよく見られた。遊具で遊ぶことで、自然と体を動かす習慣が付き、体力や筋力などの向上につながった。</p> <p>様々な遊具が組み合わさっているため、遊び方のバリエーションが増え、子供たちの興味を長時間ひきつけることができ、夢中で遊び続ける様子も見られた。複数の学年が遊具で遊ぶことができるため、学年を超えた交流が遊具遊びの中で自然に見られた。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>屋外での活動は、子供たちの体力面だけでなく、積極性やコミュニケーション能力においても大変効果があるため、季節を問わず、遊具を活用して遊びたいと考えている。しかし、最近は6月ごろから真夏日の日が増え、7月、9月は毎日のように猛暑日となってしまう。そのため、屋外での活動が制限されてしまっている。今後は、気候のよい時期を中心に子供たちが思い切り活動することができるように、年間の計画を立て活用をしていきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>本校の運動場のシンボルのような存在であり、子供たちの遊びや活動の中心となっています。職員にとっても子供の体の動きを学んだり運動の仕方を指導したりするのに役立っています。</p>

2. 活用の様子

1・2年生「遊びの指導」 大きな遊具に夢中になって遊んでいます。



6年生「学級活動」 天気のいい日には、学年みんなで活動しています。



5年生「体育」 アスレチックでバランス感覚や筋力、柔軟性を身に付けます。

